

◎ 訂正とお詫び ◎

本誌、第25巻第3号(2020年3月発行)の下記箇所に誤りがありました。訂正し、お詫び申し上げます。

『腫瘍内科』編集部

・ p. 317 本文 右段1行目～3行目

(誤) 各欠損症の頻度は日本人では5千人に1人程度といわれる(報告により差はある)。

(正) 各欠損症の頻度は日本人ではプロテインC欠損症とアンチトロンビン欠損症が500～1,000人に1人、プロテインS欠損症は100人に1人程度とされる。

[2020年4月15日]

◎ 訂正とお詫び ◎

本誌、第25巻第3号(2020年3月発行)の下記箇所に誤りがありました。訂正し、お詫び申し上げます。

『腫瘍内科』編集部

・ p. 311 表1 「患者側の因子」の4つ目

(誤) 遺伝的に過凝固をきたす疾患は5,000例に1例程度と稀であるが、その場合はよりリスクが高くなる。日本人における代表的な先天性過凝固疾患はprotein C欠損症、protein S欠損症、antithrombin欠損症の3つである。

(正) 遺伝的に過凝固をきたす疾患は稀であるが、その場合はよりリスクが高くなる。日本人における代表的な先天性過凝固疾患はprotein C欠損症、protein S欠損症、antithrombin欠損症の3つである(317頁参照)。

[2020年7月28日]